

2010年8月

— 新規指導員試験の受験体験記 —

あなたもJDSF公認指導員に挑戦してみませんか！

奈良県 一受験生

私は、先日、京都で行われました、JDSF公認指導員の選考試験を受験して来ました。その体験を報告致します。

私は、以前から、なんとなく公認指導員の資格を取りたいと思っていましたが、何時、何処で試験が行われるのか、試験の内容はどんなものか、実技試験では組相手が必要なのか事前講習は何日あるのか、講習の内容はどんなものか等、良く判らないまま、それを確かめもせずに過ごしていましたが、今回、Aリーグ広報に新規指導員講習・試験の案内が出ましたので、さっそく申し込みをしました。

そこで、色々判ったことをお知らせします。

まず、新規指導員講習・試験の予定は、JDSFのホームページの■公認指導員研修会・講習会の「平成22年度公認指導員講習会・選考試験（新規公認指導員）」欄に掲載されています。

試験の内容は、筆記試験、実技試験および面接試験で、実技試験は、シャドウ試験およびペア試験です。

シャドウ試験は、ワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャについて、指定されたアマルガメーションの男子または女子を踊ります。これは、JDSF技術認定制度のグレードコースの最上位（G1）のアマルガメーションで、その映像は、JDSFのホームページの■JDSFビデオ・DVD・CDに掲載のDVD「技術認定ビデオ グレード1, 2, 3」に入っています。

ペア試験は、受験者同士がペアになり（誰と当たるか判りません）自由に踊ります。

なお、技術認定会でスタンダードおよびラテンのグレード1に合格した人は、指導員試験の実技試験が免除されます。

試験は、8月8日（日）に行われましたが、それに先立って、7月18日（日）と19日（月・祝）の2日間、講習会がありました。

1日目は机上講習で、テキストが配布され、それに沿って、講義がありました。筆記試験はすべてこのテキストの中から出題されます。

テキストの内容は、大きく分けて、

- ・ J D S F や指導員や技術認定制度や競技会等に関する一般的な事項
- ・ アンチ・ドーピングに関する説明
- ・ ダンス用語の解説
- ・ ダンス実技に関する解説

です。

なにしろこのテキストは100ページ余りあって、読むだけでも、とても時間が足りませんので、講義では、重要なポイントについてのみの説明となりました。

このテキストの中のダンス用語集では、普段何となく知ってはいるが、正確に人に説明するとなると自信が無いような用語を、しっかりと勉強できますし、ダンス実技に関する解説では、普段あまり意識していないが重要なことが沢山記載されており、特に他の人に正しい踊り方を教えるときには、大変役に立ちそうです。

2日目は実技講習で、シャドウ試験のアマルガメーションの練習およびペア練習です。

シャドウ試験のアマルガメーションには、難しいフィガーも含まれており、特に男性にとっての女性足型や、女性にとっての男性足型を覚えるのは、かなり大変でした。

しかし、指導員になると、男性の足型も女性の足型もしっかり判っていないと人に教えられませんので、非常によく勉強になりました。

ペア練習の相手の決め方は、男女それぞれ背の高い順に並んで、順番にペアを組んでいきます。種目は、スタンダード（ワルツ、タンゴ）から1種目、ラテン（ルンバ、チャチャ）から1種目を、二人で相談して決めます。フィガーは自由です。受験生は、全員そこそこ踊れる人ばかりなので、ペア試験は一番気楽です。

講習の後、試験までの3週間で勝負です。

講習を受けただけで、何もしないで試験を受けても、まず合格出来ないと思います。

筆記試験については、講習会で貰った問題集を何回も解いては自己採点し、間違いやすいところを重点的に頭に入れることを繰り返しました。受験生は殆ど全員そうやって勉強していたようです。

シャドウ試験については、練習場へ行って、4種目のアマルガメーションの男女足を、繰り返し繰り返し練習しました。特に、それぞれのアマルガメーションの最初のフィガーから始まるとは限らず、途中から始まることもあるとの説明がありましたので、途中のフィガーのそれぞれの開始方向や、どちらの足から出るかについて、男女それぞれについて、全部で30通り以上のパターンを覚えなければならず、それが一番大変でした。

いよいよ試験当日です。

筆記試験は、1時間ですが、大体みんな40分くらいで終わり、残りの時間で確認をしていました。受験生はみんな十分な勉強をしていたようで、終わった後も、悲壮な顔をした人はいませんでした。

問題のシャドウ試験ですが、受験生5人ずつ受験します。フロアに出てから、まず、スタンダード種目について、その場で、ワルツかタンゴか、そして男子か女子かが指定され、

フィガー名が2回繰り返して読み上げられます。例えば、「LODはこの方向です。皆さんは、タンゴの女性役を踊っていただきます。フィガーを読み上げます、ウオーク、プログレッシブ・リンク、ナチュラル・ツイスト・ターン、・・・」のようにです。ラテンについても同様です。

踊る長さは、8小節分だけですので、あっという間に終わります。ただ、一番心配していた途中のフィガーから始まるケースは、他の受験生に何人が聞いたところではなかったようで、もしかしたら、今回は、すべて最初のフィガーからのスタートだったかもしれません。

そのあと、ペア試験と、面接試験ですが、ペア試験は何も心配はありません。ただ、2、3組がルンバで音を外していましたので、相手の女性が気の毒でした。

面接試験は、受験生が指導員としてふさわしくない人間でないかどうかの人物評価が目的ですので、普通は心配ありません。

とすることで、久しぶりの受験勉強も終わり、ほっと一息ついたところです。

この報告が、公認指導員の資格を取りたいのだけれど、まだ決心がつかない人の背中をそっと押すことに役立てば幸いです。

JDSFの公認指導員規則に、指導員は、指導の対価として、社会通念上妥当な報酬を受け取ることができると明記されています。すでにサークル指導を行っているが、まだ公認指導員の資格を取っていない方もいらっしゃると思いますので、この際、思い切って公認指導員の資格を取られては如何でしょうか。

そして、多くの方が公認指導員になり、サークルを立ち上げ、ダンス愛好家を増やし、その結果JDSFの会員拡大につながれば幸いです。